

ろんだん 佐賀



佐賀大学
ダイバーシティ推進室副室長
荒木 薫さん

あらい・かおる 1979年、長崎県佐世保市生まれ。佐賀医科大学卒。小児科医として県内の病院勤務を経て佐賀大学大学院医学系研究科に進学し医学博士号を取得。佐賀大のダイバーシティ推進室副室長、保健管理センター助教に就任し、大学内のダイバーシティ推進や学生のキャリア教育、教職員の健康管理などを担う。佐賀市。

11月15日からの1カ月間は「佐賀県障害者月間」である。「令和2年版 障害者白書」によると、高齢化及び障害に対する認知度の上昇により障害者人口は年々増加し、全国民のうち約7・6%が何らかの障害を有しているとされる。また、企業の障害者の雇用率（雇用する労働者のうち障害のある人の割合）は段階的な引き上げが行われ、2021年3月には2・3%、つまり300人の雇用者がいる企業では、うち7人が障害者であることが義務付けられるようになった。実際の雇用状況をみても、直近の障害者雇用数、雇用率はともに16年連続で過去最高を更新している。今後もこの傾向は続くと思われる。障害を持つ人と働くことは特別ではなくなってきた。今日はダイバーシ

ダイバーシティと障害者雇用

潜在能力生かす職場環境を

この観点から、障害者雇用について考えてみたい。障害者に対し、「できること」が限られる」という先入観を持ってしまふ人はまだまだ多い。テレビ番組で目にする障害者は重症な人が多いが、本来、障害には多くの種類があり、重度から軽度、そして健康者までグラデーションなイの観点から、障害者雇用について考えてみたい。障害者に対し、「できること」が限られる」という先入観を持ってしまふ人はまだまだ多い。テレビ番組で目にする障害者は重症な人が多いが、本来、障害には多くの種類があり、重度から軽度、そして健康者までグラデーションなIの観点から、障害者雇用について考えてみたい。障害者に対し、「できること」が限られる」という先入観を持ってしまふ人はまだまだ多い。テレビ番組で目にする障害者は重症な人が多いが、本来、障害には多くの種類があり、重度から軽度、そして健康者までグラデーションな

